

開倫塾の塾生は小学校1年生から高校3年生まで全員、新聞を毎日読もう
—新聞を毎日読み、自分で考える力と批判的思考能力を身に付けよう—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：新聞は毎日読んだほうがよいのですか。

A：(林明夫、以下省略)はい。私は、開倫塾の小学校1年生から高校3年生までの塾生の皆さんは全員、新聞を毎日読んだほうがよいと考えます。

Q：えっ、小学生も新聞を毎日読んだほうがよいのですか。

A：(1)もちろんです。各新聞社は、小学生でも読める「小学生新聞」を出しています。3年生までは、「小学生新聞」を毎日読むことを心からお勧めします。4年生以上は、普通の新聞を毎日読むことをお勧めします。4年生であれば、新聞はいくらでも読めますよ。

(2)私は、足利市立山辺小学校の4年生のときに、クラス担任の岡典子先生から小学生も新聞を毎日読むとよいと教えられました。そこで、最初は少しずつでしたが、新聞を毎日読むようになりました。

Q：中学生や高校生も毎日読んだほうがよいのですか。

A：(1)もちろんです。小学生も毎日読んだほうがよいのですから、中学生や高校生は当然です。

(2)小学校から中学校、高校、大学、大学院と学年が進み、そこで学ぶ内容が豊富になり、深まれば深まるほど、新聞の内容がよくわかるようになります。ですから、小学生よりは中学生、中学生よりは高校生のほうが、より熱心に新聞を毎日読むことをお勧めします。

(3)高校生は、一日に一回は図書館に行き、複数の日本の新聞と日本で出ている英字新聞を読むことをお勧めします。

(4)大学生や大学院生になったら、一日に一回は大学の図書館に行き、日本の新聞のほかに外国の新聞をいくつかの言語で読むことをお勧めします。

Q：なぜ林さんは新聞を毎日読むことをこれほどまでに、塾生の皆さんに勧めるのですか。

A：(1)小学校、中学校、高校、大学、大学院と続く学校での学習はすべて大切で、次の学年や上級の学校で、また、社会に出て必ず役に立ちます。ですから、すべてをしっかりと「理解」した上で「定着」させてください。ただし、現在の世の中でどのようなことが行われているのかは、教科書にはあまり書かれていません。授業でも十分に教えられていません。

(2)世の中の出来事は、テレビやラジオ、インターネットなどでも知ることができます。しかし、テレビやラジオでは時間の関係でごく限られた大きな出来事が繰り返し報じられることが多いようです。インターネットでは自分の関心の高いことしか見ないことが多いようです。

(3)学校での学習やテレビ・ラジオ・インターネットは皆大切なものですが、私は、新聞を毎日読むことは世の中の動きを知る上で極めて大切なことだと確信します。

(4)なぜなら、「番犬」(watch dog)が何かあったときにワンワンと吠えて知らせるように、新聞は社会に重大な事件・出来事・問題やみんなで取り組まなければならない課題などがあったときに、それらを伝える役割(社会的使命、ミッション)をもつからです。

Q：ところで、新聞はどのように作られ、届けられるのですか。

A：(1)新聞記者の皆さんは、社会を少しでもよくするために読者に伝えるべきことはないものかと毎日取材をなさって、記事にまとめています。

(2)編集者の方は、記者の方々から毎日送られてくる膨大な記事の中から、今、最も読者に伝えなければならないことは何かを考え、大小の見出しをつけて読者が読みやすいような形に整え、紙面作りをなさいます。

(3)それを高速印刷機で夜12時過ぎから印刷し始め、出来上がった新聞はトラック便で新聞配達店まで届けられます。新聞配達店では、仕分けをして折り込みチラシを入れます。そのあと、早朝に配達員の方々が自転車やバイクで各家庭やコンビニなどに配達していただきます。

(4)新聞には、朝届けられる「朝刊」と夕方届けられる「夕刊」があります。「夕刊」は、その日の午前中に世の中で発生した大切な出来事までをカバーしています。日本は、同じ名前の新聞で「朝刊」と「夕刊」の二種類が発行されている素晴らしい国です。皆さんは「夕刊」を読んだことがありますか。とても興味深い記事が載っていますよ。

Q：新聞を毎日読むと、何かよいことがありますか。

A：たくさんあります。

(1)世の中のことがよくわかります。新聞の「地方版」をよく読むと、自分の住む「市や町」「県」「北関東」などのことがよくわかります。また、最初のページを「一面(いちめん)」と言いますが、一面からゆっくりとなめるように読んでいくと、日本や世界では今どのようなことが起こっているのかがよくわかります。政治や経済の動きもよくわかります。

(2)知っている「ことばの数」がどんどん増えます。一日に一つの新しいことばを知るだけでも、1年で365、3年で1000のことばを知ることができます。すると、学校の授業もよくわかるようになります。

(3)文章をしっかりと「理解」しながら読むスピードが速くなります。そのため、少し難しめの長い文章を読むことができるようになります。私立中学校入試、中高一貫校入試、高校入試、大学入試、大学院入試、就職試験、様々な国家試験の問題文や設問は相当な分量がありますので、よい試験対策になります。

(4)筋道立てて論理的にものごとを考える力が少しずつ身に付きます。多くの新聞記事は5W1H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)の形を踏まえ、こうだからこうだと筋道立てて論理的に書かれているからです。

(5)そして何よりも、自分で考える力と批判的思考能力が少しずつ身に付きます。新聞記事は、一人ひとりの記者が自らの良心と生命を懸けて社会をよりよくするために社会の問題点や課題を掘り起こしたものだからです。

(6)ただし、新聞に書かれていることは一つの新聞社がとらえた一つの見方に過ぎないことも忘れてはならないと私は考えます。図書館などでいくつかの新聞を読み比べてみると、ある一つの出来事について大きく取り上げている新聞もあれば、一行の記事にもしていない新聞もあることがわかります。新聞を読む場合には、これは世の中をとらえる一つの見方なのだと思われ、自分の力でよく考え、批判的に読むことが大切です。新聞に出ているのは世の中の出来事のごく一部で、多くのことは載っていないということも忘れないでください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)新聞を毎日一面からなめるようによく読むと、長い文章を読むことに慣れ、ことばの数も増えます。また、何のために各科目を学ばなければならないのかが少しずつわかってきますので、自覚が出てきて、学力もグングンと上昇します。

新聞に加えて、学校の各科目の教科書に紹介されている著者の本を、著者と対話をするようなゆっくりさで深く考えながら4～6回読むと、思慮深さが少しずつ身に付いてきます。学力の高い人は、本の冊数は多くなくても、1冊の本を何回もじっくりと読んで思慮深さを身に付けているようです。

(2)遠回りかもしれませんが、この文章をお読みになった塾生の皆さんは今日から新聞と読書に励んで、自分で考える力と思慮深さを身に付けてください。これに加えて学習の仕方を身に付けければ、学力も飛躍的に向上します。

以上